

分会情報

J R 東海 新幹線 関西 地本 大阪 修繕 車両 所 分会

No. 15 2009. 11. 18.

発行責任者 坂東 貞男

編集責任者 教 宣 部

本当に間に合うのか？

台交受け取り検査の社員40名程度(修繕グループ)への十分な訓練！

9月10日に「台車検査に伴う台車交換作業の体制見直し」について関西支社からある程度具体的な提示がされ、さらには10月21日の業務委員会でも「台車検査に伴う台車交換作業の体制見直し」に関して一定程度説明された状況ではありますが、現場ではあまり体制見直しへの動きが見えてきません。そのため現場では本当に12月から体制変更できるのかという声も聞こえています。

ようやく今月に入り修繕車両所においても、遅ればせながら体制変更の概要的な内容を説明する説明会が実施されましたが、依然として本当に12月から体制変更できるのかというのが偽らざる感想ではないでしょうか？

業務委託先である協力会社(SEK)においては、10月初旬から机上訓練を行い、10月半ばからは現車訓練(見習い)も始まっています。また、体制見直し後の台交試運転の業務(京都駅での床下検査)についても、仕業検査車両所新大阪支所の社員へ現車訓練(見習い)が10月半ばから始まっています。

11月も半ばを過ぎ、12月7日に予定されている体制見直しまでの台車交換実施回数も片手で数えられる回数しか残っていません。にもかかわらず台車交換の重要な役割(受け取り検査=合いマーク確認)を果たすはずの修繕車両所では、未だ修繕グループの社員への具体的な机上訓練や現車訓練が行われていません。

会社は、10月21日に東海労と行った業務委員会で「受け取り検査については、修繕グループの社員40名程度、11月以降、準備として机上と実務を行う」と提示しています。提示通りに訓練を行うとすると、受け取り合いマーク確認を担当するであろう社員全員への現車訓練には相当な日数・時間がかかると思われますが、未だに何時実施するのかさえ明らかになっていないのが現状です、本当に間に合うのでしょうか？また、十分な訓練が出来るのでしょうか？

合いマークの確認だけで新幹線の安全は守れるか？

私たち東海労大阪修繕車両所分会は、合いマークが基本の受け取り検査では新幹線の安全が確保できるのか疑問を持っています。台車交換の検査作業は大変重要な作業であることは言うまでもありませんが、それを担当する社員は台車検査を経験した台車を熟知するプロ中のプロが安全のために五感を働かせながら行う作業であると考えます。合いマークが基本の受け取り検査で新幹線電車の高速走行に重要な一重系の台車の安全が本当に確保できるのでしょうか？

事実、現場の声として「合いマーク確認だけでは不安だ」「会社の説明した合いマーク確認にかかる時間が30分程度で本当に出来るのか」「一人で2両はきつい作業になりそう」「今までにない作業が増えて労働強化だ」等々、不安や不満の声があがっています。

社員の不安や不満を解消するためにも会社は、十分な訓練を行い、誠意ある対応をするべきです！